

▶ バックアップは変化しています。 準備はできていますか？

現代のエンタープライズ環境に必要な 5 つのバックアップ要件

バックアップはこの 10 年間で大きく変わりました。その複雑さはますます増し、単にオンプレミスの物理サーバーをテープへバックアップすればよい、という時代は終わりました。今日のバックアップソリューションは、オンプレミスからクラウドまで、物理サーバーや仮想マシン、ノートブックやクライアント PC 端末、アプライアンスなどすべてを網羅する必要があります。さらには、急激に増え続けるデータ量、オンプレからクラウドへの移行、アプリケーション、ハイパーコンバージェンス、デジタルトランスフォーメーション ストラテジーの影響を考慮に入れて、バックアップ戦略を策定する必要があります。

今日のエンタープライズ環境の複雑さは、従来のソリューションがもはや十分でないことを意味しています。従来のソリューションでは、クラウドなど、現在の最新の環境をハンドリングできるように設計されていないからです。かといって、特定のユース ケースだけを対象とする新しいポイント製品を大量に導入した場合、環境の複雑度が増すだけです。

こうした理由で、多くのお客様がバックアップ / リカバリ ソリューションの買い直しを検討しています。実際、Gartner 社は、全組織の半数が、2017 年初頭の時点で導入されているバックアップ アプリケーションを、2021 年までに別のソリューションによって補強または置き換えると予測しています。¹

このような混沌とした状況においても、バックアップの根本的な目的は変わりません。それは、"データがどこにあろうとも安全にバックアップすることができ、必要に応じてどこからでもデータをすばやく回復することができる" というものです。バックアップは魅力的でないとしても必要なことであり、この課題を解決するには、斬新なアプローチが必要です。



▶ 現代のエンタープライズ環境に必要なバックアップ要件

現代の企業に求められる、以下の5つの重要なバックアップ要件をお確かめください。

- 1 柔軟性。"変化"こそ、唯一の不変なものです。合併や買収後に現在サポートしていない新しいアプリケーションを継承することになったり、柔軟性を高め、価格が有利な方を利用できるように複数のクラウドストレージプロバイダーをサポートすることを求められたり、複数のまたは種類の異なるストレージアレイに対してスナップショットを利用してリカバリ時間を短縮する必要があったりと、環境は常に変化しています。

従来のバックアップソリューションでは、仮想化、クラウド、またはスナップショットとの連携の対応に制限がある場合や、データをクラウドに転送するために高価なゲートウェイが必要になったり、費用がかさむだけでなくクラウドへの転送後にデータの状態を十分に把握できなくなる可能性があります。一方、"新しい"ソリューションの多くは、サポートできるクラウドプロバイダーやスナップショットエンジンの数に制限があって柔軟性が犠牲になる場合や、複数のバックアップソリューションを導入せざるを得なくなり、再び複雑さと格闘することになる可能性があります。

環境内のアプリケーションとデータベース、ストレージハードウェア、OS、ハイパーバイザー、クラウドストレージプロバイダーの数や種類にかかわらず、複数のデータセンターや地域、クラウドを対象にワークロードを保護できるソリューションが必要です。できれば、対応範囲が広く、新しい技術に速やかに適応してきた実績のあるソリューションがよいでしょう。そのようなソリューションであれば、現在だけでなく、今後技術が進歩しても保護が得られる見込みが高く安心です。

- 2 自動化。複雑な手動プロセスや、複雑なスクリプトの作成と管理を喜ぶ人はいませんが、現在の多くのバックアップ環境ではそのような作業が存在します。このようなプロセスは貴重なITリソースを消費し、人的エラーを誘発しやすく、ビジネスに還元できる価値を生むために使用できなかったはずの貴重な時間と資金が無駄になります。

一方、最新のバックアップソリューションには、自動化、オーケストレーション、ポリシーベースの管理機能が組み込まれています。これにより、処理がシンプルになり、信頼性が高まり、ITの生産性が向上します。自動化は複雑さを軽減できるほか、時間がかかりエラーが発生しがちな手動のスクリプトの排除、運用コストの節約にも貢献します。また、自分で定義したポリシーを基に、コアチーム外の関係者にもセルフサービスのアクセスを提供することで、ITリソースを解放し、より戦略的な取り組みに集中することができます。

- 3 最新。このコンテキストでも、"最新"という言葉はよく使用されます。では、その意味するところは何でしょうか。この定義は、実はその時々が存在するものによって変化します。それはバックアップの領域でも同じです。"最新"が仮想化環境をサポートすることを意味する時もありましたが、やがて、スナップショットを利用して従来のバックアップを補強することを意味するようになりました。バックアップの領域ではどちらも今ではあたりまえの機能となっています。そのため、"最新"の定義には、現在のハイブリッドクラウド環境をサポートするスケールアウト型のアーキテクチャが含まれるようになりました。

「全組織の半数が、2017年初頭の時点で導入されているバックアップアプリケーションを、2021年までに別のソリューションによって補強または置き換えるでしょう。」

GARTNER、

『Magic Quadrant for Data Center Backup and Recovery Solutions (データセンター向けバックアップ/リカバリソリューションのマジッククアドラント)』、
2017年7月31日

多くのレガシー環境では、大規模でモノリシックなスケールアップ型のアプライアンスを購入しなければなりません。このタイプのアプライアンスでは、当初必要とした容量以上のストレージ容量を購入せざるを得ず、また、アプライアンスの容量がいっぱいになるか、耐用年数が終了すると、費用の高いフォークリフト アップグレードが必要になります。

これを最新のスケールアウト型のアーキテクチャと比べてみましょう。最新のアーキテクチャでは、最初に必要な容量を購入したら、データ量の増加に合わせて容量とコンピュートを追加できます。クラウドのようなアーキテクチャで、アプリケーションの可用性を高め、予測可能なパフォーマンスを実現します。また、スタンドアロン型のアプライアンスとして提供することも、既存のハードウェア投資を活かすことのできるリファレンス デザインとして提供することもできます。どのように導入されても、クラウド インフラストラクチャならではの経済性と拡張性のメリットを享受できます。

- 4 コスト効率。ほとんどのソリューションがコスト効率を謳っています。そこで、バックアップ環境全体の中で、どのようにコストを評価するかを理解することが重要です。価格はコスト効率を評価する際の要素になりますが、さまざまなユース ケースに対応するためにいくつもの "安価な" ポイント製品を購入しなければならないとしたら (例えば、VM 用、アーカイブ用、重複排除用、クラウド用など)、本当に節約はできているのでしょうか。単に管理がますます複雑になっているだけではないでしょうか。

コストを削減するより良い方法があります。最も一般的な方法は、重複排除を使用して、冗長データがバックアップされないようにすることです。これにより、プライマリ ストレージとセカンダリ ストレージのコストを最適化できます。ソース側の重複排除では、ソース側、つまりクライアント側で重複排除が行われて、リモート バックアップ時にネットワーク上に送信されるデータ量を削減できるため、ターゲットベースの専用の重複排除アプライアンスよりもさらにコストを削減することができます。

また、データの価値とストレージのコストとを一致させることでも、ストレージコストを最適化できます。つまり、本番環境のデータや最も頻繁にアクセスされるデータは、パフォーマンスが最も高い (おそらく最も高価な) ストレージに保存します。しかし、データが古くなるかアクセス頻度が低くなった場合は、クラウドなど、料金がより低いセカンダリのストレージにデータを移動します。

この最適化は、ユーザー定義のポリシーとサービスレベル要件に基づいて、簡単にデータを保存したり、ストレージの階層間 (テープとクラウドを含む) でデータを移動したりできる場合にのみ、実現できます。適切に実装されている場合、データが定義したしきい値に達すると、プライマリからセカンダリ、オンプレミスからクラウド、クラウド プロバイダー間、ディスクからテープなど、自動的に別の階層に移行されます。ただし、これができるのは、ご使用のエンタープライズ バックアップ ソリューションが、アプリケーション、クラウド、ストレージを幅広くサポートしている場合のみです。

また、ディザスタ リカバリの処理を迅速化することでも、コストを削減できます。この方法では、アプリケーションとデータにすぐにアクセス可能になることで、ダウンタイム コストが低減し、可用性が向上します。これは、スナップショットと自動化されたワークフローを利用して実現できます。

シンプルでコスト効果の高い
最新のバックアップとリカバリ：
そのすべてを得る方法

データ保護のために、競合する
需要のバランスを取る方法に
ついて紹介しています。

今すぐ読む



5 アクティブ。従来のバックアップは、保険のようなものでした。必要になった場合に備えて存在していましたが、ほとんどの場合、データは何か役に立てられることもなく、ストレージを消費し、ただ保管されているだけでした。しかし、それはもう過去の話です。現在のエンタープライズ バックアップソリューションは、ただデータを保護するだけでなく、開発とテストの加速化やクラウドへの移行、データ アナリティクスの改善など、ビジネス目的に合わせてデータを活用できるものへと進化しています。

これは、データの可視性を高め、コンプライアンスを改善し、管理業務をシンプルにする一元的なレポジトリと動的インデックスを使用することで実現できます。さらに、今日のバックアップソリューションは、リスクが高くなるサイロ化されたデータ保護のアプローチを排除できるだけでなく、設備投資を削減したり、データから得られる洞察を向上したりすることもできます。

▶ 今こそ、変化の時

この 10 年間で、ビジネス要件、進歩した新しい技術、さらには新たに押し寄せる外部からの脅威によって、環境は変化しました。しかし、依然として、従来のバックアップ/リカバリソリューションを用いた古いアプローチによって、これらの新しい課題に対応しているか、機能が限定された専用の製品を次々と追い求めては管理の複雑さを高める結果になっています。最新のバックアップ戦略は、急激に増え続けるデータ、アプリケーション、ハイパーコンバージェンス、クラウドへの移行、デジタルトランスフォーメーション戦略の影響を考慮に入れて策定する必要があります。バックアップは変わりました。あなたは変わりますか？

▶ 強力かつシンプルに、データがどこにあってもバックアップし、どこへでもリカバリできます。
commvault.com/backup にアクセスしてください。

© 2019 Commvault Systems, Inc. All rights reserved. Commvault、Commvault とロゴ、「C hexagon」のロゴ、Commvault Systems、Commvault OnePass、CommServe、CommCell、IntelliSnap、Commvault Edge、および Edge Drive は、Commvault Systems, Inc. の商標または登録商標です。その他すべてのサードパーティのブランド、製品、サービス名、商標、または登録サービス マークは、それぞれの所有者の所有物であり、これらの所有者の製品またはサービスを識別するために使用されます。すべての記載は通知なしに変更される場合があります。

COMMVAULT 



COMMVAULT SYSTEMS JAPAN株式会社 〒141-6008 東京都品川区大崎2-1-1 THINKPARK TOWER 8F

WWW.COMMVAULT.COM | PHONE: 03-5747-9610 | JPSALES@COMMVAULT.COM

© 2019 COMMVAULT SYSTEMS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.